様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：１２１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２４５２

研究課題名（和文）世紀転換期における「日本」の語り―岡倉覚三と岡倉由三郎を中心とした比較文学的研究

研究課題名（英文）The Introduction of Japan to Western Countries in the Early Twentieth Century: The Works of Okakura-Kakuzo and Okakura-Yoshisaburo

研究代表者
清水　恵美子（SHIMIZU, EMIKO）

茨城大学・社会連携センター・准教授

研究者番号：２０５３１７３４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、岡倉覚三（1863-1913）と由三郎（1868-1936）の兄弟が、世紀転換期の英米で出版した英文著作（The Ideals of the East『東洋の理想』（1903）、The Awakening of Japan『日本の覚醒』（1904）、The Book of Tea『茶の本』（1906）、The Japanese Spirit『大和心』（1905）、The Life and Thought of Japan『日本の生活と思想』（1913）の内容を比較し、分析することが目的である。研究成果をまとめて、2017年『洋々無限　岡倉天心・覚三と由三郎』（里文出版）を刊行した。

研究成果の概要（英文）：This study analyzes and compares the English-language works on Japan written by Okakura-Kakuzo and his younger brother, Okakura-Yoshisaburo in the early 20th century. The research primarily covered the following books: The Ideals of the East, The Awakening of Japan and The Book of Tea by Kakuzo, and The Japanese Spirit and The Life and Thought of Japan by Yoshisaburo. The results of the research have now been published in a book titled Yo Yo Mugen: Okakura-Tenshin as Kakuzo and Yoshisaburo (Ribun Shuppan, 2018).

研究分野：比較文学比較文化、美術史

キーワード：比較文学論　日本美術史　芸術思想　岡倉覚三　岡倉由三郎　文化交流　岡倉天心　多文化共生

１．研究開始当初の背景

近代日本の芸術思想家岡倉覚三（天心、1863-1913）は、「日本」や「アジア」の美術や文化を紹介する三冊の英文著書を出版した。彼の著作と思想に関する研究は、木下長宏『岡倉天心―物ニ観ズレバ竟ニ吾無シ』（2005）をはじめ、2009 年に米国でシンポジウム “Okakura Kakuzo and Meiji Japan Workshop”が開催され、 Noriko Murai, Yukio Lippit, *Beyond Tenshin: Okakura Kakuzo's Multiple Legacies* (2012)、Rustom Baharucha, *Another Asia: Rabindranath Tagore & Okakura Tenshin*(2006)が出版されるなど、国内外で蓄積されてきた。

一方、覚三の実弟、言語学・英文学者の岡倉由三郎（1868-1936）も欧米で「日本」に関する講演を行い、兄と同様「日本」を「西洋」に発信した。兄弟は同時期に著書を西欧社会で出版し、それぞれが互いの著書を高く評価していた。だが覚三の人物像を考察する際に、由三郎の回想（「次兄天心を語る」『岡倉天心人と思想』、1982）がしばしば引用されるものの、彼らの著作の関係性は、ほとんど議論されていない。

例えば、これまで訳出されたのは *The Japanese Spirit*『日本精神』（「英米文學」9 号、1937 年）のみで、原田純『前世紀転換期の日本学―チェンバレン対ハーンと岡倉由三郎』（『思想』814、1992）、平田諭治「岡倉由三郎の *The Life and Thought of Japan* はいかに読まれたか―発信された「日本」と帝国主義世界」（『英学史研究』42、2009）等の先行研究があるものの、覚三の著作と比べれば知名度は低い。

二人の著作を取り上げた研究として、『日本精神』を *The Ideals of the East*『東洋の理想』と比較して、由三郎の対外的「日本」紹介を論じた平田諭治論文（「岡倉由三郎『ザ・ジャパニーズ・スピリット』考」、『英学史論叢』1、1998）がある。だが、二人の著作の分析は、主として個々に行われ、相互の影響関係は深く追究されてこなかったのである。

研究代表者は、これまで岡倉覚三が「日本、「アジア」、芸術、宗教をどのように捉え、論じたのかを追究してきた。平成 23 年度科研費研究成果公開促進費（学術図書）を得て、単著『岡倉天心の比較文化史的研究―ボストンでの活動と芸術思想』（思文閣出版、2012 年）を出版し、平成 24 年度芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞した。また、平成 21～23 年度科研費基盤研究（Ｃ）の助成を得て、単著『五浦の岡倉天心と日本美術院』（岩田書院、2013 年）を出版した。

これらの研究成果を踏まえて、2013 年の日本比較文学会東京大会にて、『茶の本』と『日本精神』を茶事に関する記述という視座から比較した（「岡倉覚三と岡倉由三郎の英文著作をめぐって―*The Book of Tea* と *The Japanese Spirit* を中心に」『日本比較文学会東京支部研究報告』11、2014）。その過程で、表現の類似、共通する思想を見出し、本研究の課題の着想を得るに至った。

２．研究の目的

本研究は、従来試みられなかった覚三と由三郎の英文著作を比較する。同時に覚三と由三郎の活動を同時に照射することで、さらなる研究の発展を目指すものである。

その際の論点は次の 3 点である。

（１）岡倉覚三の英文著作を岡倉由三郎の英文著作との比較から考察

覚三は、西欧社会に向けて『東洋の理想』(1903)、*The Awakening of Japan*『日本の覚醒』(1904)、*The Book of Tea*『茶の本』(1906)を出版した。一方、由三郎は『日本精神』（1905)、*The Life and Thought of Japan*『日本の生活と思想』（1913）を出版した。

二人の英文著作は短期間のうちに呼応するように出版されており、互いにそれを贈り、高く評していた。この事実を重視し、これまで個々に研究されてきた二人の著作を同時に照射し、内容を比較し、両者の特徴を分析するとともに、各書の関係性を総合的に検討し、その差異性と共通性について考察する。由三郎の著作と比較することで、これまで相互に矛盾していると批判されてきた覚三の三つの著作に、一貫する流れを見出し、覚三の英文著書の研究発展に寄与することを目指した。

（２）美術史、英学史にまたがる研究の総合性

これまで二人の著書が別々に研究されてきたのは、覚三の研究が主に美術史、由三郎の研究が主に英学史を中心に、異なる学問領域で蓄積されてきたことが一因にあると考えられる。そこで、学問領域で分断されてしまった二人の活動を、美術史と英学史の枠を超えて考察することで、新知見の獲得を目指した。手がかりとして、出版地であるアメリカやイギリスの社会的・文化的状況、ボストンの知識人層やタゴール Rabindranath Tagore (1861- 1941)など、兄弟が共有した国際的ネットワークを視野に入れ、グローバルな視点から覚三や由三郎が国際社会に果たした役割について考察した。

（３）岡倉覚三の思想の継承と今日的意義

二人の著作の共通性を見出し、覚三を中心

に形成されたネットワークと由三郎との交流を考察することで、没後に覚三の思想が国内外でどのように継承されたか、という問題を追究した。継承された覚三の思想と、戦前期に創出された「岡倉天心」像との乖離を明確にすることは、近代日本の帝国主義と美術を考察する新たな手がかりになろう。

語学力を駆使して、日本文化を他の文化との関連においてグローバルな視点でとらえ、他者との共存を説いた覚三の執筆活動は、価値観や生き方の多様性を尊重しあう「多文化共生」推進を課題とする現代の国際社会において、重要な道標となる可能性を検討した。

３．研究の方法

本研究の具体的作業は、次の 4 点である。

（1）覚三と由三郎の英文著作の比較・分析

覚三と由三郎の英文著作の内容を比較し、各書の特徴を分析するとともに、差異性と共通性について考察した。また相互の関係性を総合的に検討した。

研究代表者は、覚三著『茶の本』と由三郎著『日本精神』を茶事という視座から考察してきた。この成果によって、彼らの英文著作を比較するには、分析視座を固定して５冊同時に照射する方法が有効だと確信した。そこで、これまでの研究を発展させるため、茶事という視座で５冊の著作を同時に照射した。次にその結果を踏まえて、新たなキーワード（明治維新、宗教、美術、言語）を設定し、さらなる比較・分析を試みた。

（2）資料調査とデータベース化

次の施設の所蔵資料を調査し、翻刻や翻訳を行いながら、データベース化を進めた。

① 茨城県天心記念五浦美術館における調査

2012 年から調査中の資料群は、岡倉由三郎の子孫である岡倉俊彦氏が美術館に寄贈したもので、岡倉家に関する資料が千点以上ある。目録は公表されていないため、岡倉俊彦氏、同美術館の長山貞之氏の協力を得て、調査を継続し、すべての資料の内容を把握した。確認した資料は画像データで保存し、書簡の翻刻と、英文資料の翻訳を行った。

② 米国ボストンにおける調査

渡米時の岡倉覚三・由三郎関連の資料についてボストン美術館ほか複数の関連施設で調査を実施し、美術館学芸員や研究者と意見交換を行った。

③ インドにおける調査

覚三の『東洋の理想』で言及されたインド仏教美術の変遷、イスラム美術の特徴を把握し、日本の「語り」とインド美術との関連を考察するため、マトゥラー博物館ほか関連施設を調査した。

④ 英国ロンドンにおける調査

大英博物館ほかロンドン市の博物館、美術館において、覚三の欧州視察に記載された美術品を確認し、彼の英文著作にどのように反映されたかを考察した。また由三郎がロンドンに行った講演に関する資料を調査した。

⑤ イタリアにおける調査

由三郎が訪問したジェノバのキヨッソーネ東洋美術館、覚三が欧州視察日誌に記録したサンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会、ポルディ・ペッツォーリ美術館などを訪ね、資料調査、美術品の実見、学芸員との意見交換を行った。

（3） 論文執筆と口頭発表

資料調査の結果と先行研究を踏まえて、論文執筆、国内外のシンポジウムやセミナーなどでの口頭発表を通して、研究成果を社会に発信した。

（4） 研究成果の刊行物出版

以上の研究成果を蓄積し、総括として複数の出版物を準備した。

４．研究成果

三年間の研究を通じて得られた成果は、資料調査による新資料の発見、書籍の出版、シンポジウムの開催などがある。さらに講演、論文、資料展示などを通して社会へ発信した。

（1） 平成 27 年度

資料調査とデータベース化については、茨城県天心記念五浦美術館、ボストンの関連施設、インドの関連施設が収蔵する資料調査を行った。茨城県天心記念五浦美術館において、岡倉覚三没後の岡倉由三郎と日本美術院同人との交流を示す書簡を発見し、翻刻した。またボストンのボストン・アセニウムでは、由三郎の活動に関する新資料を発掘した。

2015 年 12 月に開催された公益財団法人大倉精神文化研究所・岡倉天心市民研究会共催公開講演会において、「岡倉覚三・天心と弟 ・由三郎」の論題のもとに、由三郎の著作や活動を美術や芸術思想の視座から分析し、岡倉兄弟の共通性を双方向的に照射しながら、 影響し合う二人の関係性を考察した。また、2016 年 2 月茨城新聞社主催セミナーにおいて、「岡倉天心と五浦」の論題で講演し、覚三の『茶の本』と六角堂との関係について考察した。

（2） 平成 28 年度

引き続き、茨城県天心記念五浦美術館、ロンドンの関連施設において資料調査を行った。江戸千家が所蔵する覚三書簡と天心記念五浦美術館にて発見した由三郎と日本美術院同人との書簡を翻刻し、『五浦論叢』第 23 号（茨城大学五浦美術文化研究所）に発表した。

覚三と由三郎の英文著作の比較・分析をまとめて単著を出版することは、本研究の最終目標であったが、予定より早く 2017 年 1 月に『洋々無限—岡倉天心・覚三と由三郎』（里文出版）を刊行することができた。

本書において、覚三は美術、由三郎は言語という異なる分析視座から「日本」をどのように捉え、論じたのか、比較して考察した。その中心の一つとして、覚三が米国 で出版した『茶の本』と、一年先駆けて英国で出版された由三郎の『ザ・ジャパニーズ・スピリット』の共通性を対比させた。また覚三の没後に由三郎が主宰した「洋々塾」において、村岡博による和訳を連載し、『茶の本』を岩波文庫から刊行させたことを確認した 。日米印の美術交流に果たした覚三の功績の大きさと、由三郎が覚三の思想を理解し、その遺志を継いだことを指摘した。

本書で試みたのは、由三郎の人生を主軸に覚三の人生を補助線として、各自の活動を交互に照射することによって、時折交錯し、影響し合う二人の関係性を浮き彫りにすることであった。二人の活動を照応することで浮かび上がってきたのは、相互の信頼の深さや評価の高さであり、それを支えていた思想の共通性である。その知恵は、国家間、民族間の対立が激しさを増した現代社会において、いっそう示唆に富むものと結論づけた。目次は次の通りである。

はじめに
序章　二人のオカクラ
第一章　岡倉兄弟と世界
第二章　挫折と思慕
第三章　兄弟を育んだ文化的土壌
第四章　覚三没後の由三郎
第五章　日本とアメリカをつないで
おわりに
あとがき

また、2016 年 9 月に茨城大学主催で「国際岡倉天心シンポジウム 2016」を開催した。研究代表者は企画・監修を担当し、米国、インド、日本国内の岡倉研究者を招聘した。講師として研究成果を発表するとともに、岡倉の思想の現代的意義についてディスカッションを行った。その成果を参加者と共有し、メディアを通じて社会に発信した。その後、同大学で開催された企画展「岡倉天心（覚三）の遺産展 vol.1」では企画やキャプションを担当し、研究成果を反映させた。

（3） 平成 29 年度

前年度に出版した『洋々無限 岡倉天心・覚三と由三郎』の成果を踏まえて、さらなる資料調査と、研究成果の社会発信に取り組んだ。

イタリアにおいて岡倉由三郎が訪問したキヨッソーネ東洋美術館、岡倉覚三が欧州視察日誌に記録したサンタ・マリア・ デッレ・グラツィエ教会、ポルディ・ペッツォーリ美術館などを訪ね、資料調査、美術品の実見、学芸員との意見交換を行った。

研究成果は、書籍、講演、論文、展示などを通して社会へ発信した。
まず、覚三の三冊の著書を明治維新という分析視座から論じた「岡倉覚三の明治維新観—世紀転換期における『日本』の語り—」が、近代茨城地域史研究会編『近世近代移行期の歴史意識・思想・由緒』（岩田書院、H29 年 10 月）に所収され、出版された。

次に、前年度開催「国際岡倉天心シンポジウム 2016」の報告集『岡倉天心 五浦から世界へ—茨城大学国際岡倉天心シンポジウム 2016』（思文閣出版、H30 年 1 月）を刊行した。研究代表者は、次の執筆を担当した。
・講演　『茶の本』とオペラ台本《白狐》」
・パネル・ディスカッション「天心の思想と現代的意義を語る」
・シンポジウム 2 日目報告
・シンポジウム後記

・附録　天心を理解する 10 の遺品―茨城大学五浦美術文化研究所所蔵品紹介

パネル・ディスカッションの内容は、五浦、インド、ボストン、宗教、文化、芸術をキーワードに、国際人としての岡倉覚三、文化による国際交流、晩年の拠点である五浦の意味について講師が交わした議論が収録された。

さらに、11 月インドネシアのジェンドラル・スディルマン大学において“*The Life and Ideology of Okakura Kakuzo*”をテーマに基調講演を行った。

このほかの社会発信として、「世界のなかの Kakuzo Okakura」（茨城大学土曜アカデミー「岡倉天心セミナーvol.1」H29 年 7 月）、「岡倉天心と弟・由三郎をめぐって」（五浦日本美術院岡倉天心偉績顕彰会「天心忌セミナー」、H29 年 9 月）、「新著を語る：洋々無限 岡倉天心・覚三と由三郎（茨城大学土曜アカデミー「岡倉天心セミナーvol.2」H29 年 11 月）」などで口頭発表を行った。

さらに 11 月、茨城大学で開催された企画展「岡倉天心（覚三）の遺産展 vol.2」では展示品やキャプションに研究成果を反映させた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 8 件）

① 清水恵美子、五浦の 10 年を考える―岡倉覚三（天心）と日本美術院の五浦時代、茨城県近現代史研究、1 号、2017、54-67

② 土山實男・渡邉昭夫・飯笹佐代子・小川忠・小倉和夫・清水恵美子、アジアはひとつから地球はひとつへ：岡倉天心を引照基準として国際文化交流について考える（討論）、*Peace and Culture*、2017、87-98

③ 清水恵美子、岡倉覚三の英文著作―明治維新観を中心として、英語学論説資料、査読有、48-4 巻、2016、1-9

④ 清水恵美子、日本美術院の五浦移転と茨城県、茨城史林、40 号、2016、92-108

⑤ 清水恵美子、岡倉覚三書簡・岡倉由三郎関連資料、五浦論叢（茨城大学五浦美術文化研究所紀要）、23 号、2016、105-120

⑥ 清水恵美子、1930 年代初頭の米国における現代日本画展覧会、文化資源学、査読有、13 号、2015、61-73

⑦ 清水恵美子、美術交流における岡倉由三郎：米国現代日本画展を中心に、Lotus 日本フェノロサ学会機関誌、査読有、35 号、2015、97-112

他 1 件

〔学会発表〕（計　14　件）

① Emiko Shimizu, *The Life and Ideology of Okakura Kakuzo,* General Lecture , 2017 年 11 月 22 日、Jenderal Soedirman University

② 清水恵美子、洋々無限―岡倉天心・覚三と由三郎、茨城大学土曜アカデミー 新著を語る 岡倉天心セミナー vol. 2、2017 年 11 月 18 日、茨城大学図書館

③ 清水恵美子、岡倉天心と弟・由三郎―横浜時代をめぐって―、五浦日本美術院岡倉天心偉績顕彰会「天心忌セミナー」、2017 年 9 月 2 日、五浦観光ホテル大観荘

④ 清水恵美子、世界のなかの Kakuzo Okakura、茨城大学土曜アカデミー 岡倉天心セミナー vol. 1、2017 年 7 月 29 日、茨城大学図書館

⑤ 清水恵美子、岡倉天心はコーヒーを飲んだか？日本コーヒー文化学会・日本コーヒー文化学会茨城支部、2017 年 6 月 25 日、常陽藝文センター

⑥ 清水恵美子、五浦の 10 年を考える―岡倉覚三（天心）と日本美術院の五浦時代、茨城県近現代史研究会、2017 年 1 月 21 日、茨城県開発公社ビル

⑦ 清水恵美子、天心の言葉の宇宙―漢詩と英語をめぐって、観月会 2016、2016 年 10 月 29 日、茨城県天心記念五浦美術館

⑧ 清水恵美子、岡倉天心とオペラ《白狐》、江戸千家高田不白会講演会、2016 年 9 月 24 日、赤倉ホテル

⑨ 清水恵美子、『茶の本』とオペラ《白狐》、国際岡倉天心シンポジウム 2016、2016 年 9 月 3 日、ホテルレイクビュー水戸

⑩ 清水恵美子、岡倉天心 五浦から世界へ、茨城新聞合同政経懇話会、2016 年 8 月 3 日、水戸プラザホテル

⑪ 清水恵美子、茨城学への招待　岡倉天心と五浦、茨城新聞水睦会、2016 年 2 月 18 日、水戸証券ビル

⑫ 清水恵美子、岡倉覚三・天心と弟・由三郎、公益財団法人大倉精神文化研究所、岡倉天心市民研究会共催公開講演会、2015 年 12 月 05 日、大倉山記念館

他 2 件

〔図書〕（計　3　件）

① 茨城大学社会連携センター・五浦美術文化研究所（三村信男、影山俊男、藤原貞朗、小泉晋弥、清水恵美子、アン・ニシムラ・モース、那波多目功一、青柳正規、ヴィクトリア・ウェストン、スワーミー・メーダサーナンダ）、岡倉天心 五浦から世界へ—茨城大学国際岡倉天心シンポジウム 2016、思文閣出版、2018、216 頁

② 近代茨城地域史研究会（佐々木 寛司, 清水 恵美子, 桐原 健真, 木戸 之都子, 皆川 昌三, 天野 真志, 門馬 健, 飯塚 彬, 林 真美）、近世近代移行期の歴史意識・思想・由緒、岩田書院、2018、258 頁

③ 清水恵美子『『洋々無限—岡倉天心・覚三と由三郎』里文出版、256 頁

〔その他〕

（１）報道関連情報（資料提供）

①「茨城の大観　生誕 150 年（３）茨展の立役者」 茨城新聞 2018 年 3 月 23 日

② 「茨城の大観　生誕 150 年（２）五浦時代」茨城新聞 2018 年 3 月 22 日号

③ 「天心もコーヒー飲んだ　水戸で『楽しむ会』　清水さんが講演」茨城新聞、2017 年 6 月 29 日

④ 「五浦タイムズ　茨城大学国際岡倉天心シンポジウム２０１６特別発行新聞」茨城新聞、2016 年 10 月 7 日

⑤ 「天心の思想ひもとく」合同政懇　清水氏講演、茨城新聞、2016 年 8 月 4 日

（２）ホームページ等

Research Map（清水恵美子）
http://researchmap.jp/shimizu-emiko/
茨城大学 研究者情報総覧（清水恵美子）
https://info.ibaraki.ac.jp/scripts/websearch/gakubu_result.htm

６．研究組織

(1)研究代表者

清水恵美子（SHIMIZU Emiko）
茨城大学　社会連携センター　准教授
研究者番号：20531734

(2)研究分担者　無し

(3)連携研究者　無し